

グループホーム あんずの郷

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		地域に根ざした安心と安らぎのあるグループホームを目指します」という地域密着型サービスの役割を反映させた独自の理念を作っている。地域での祭りや行事に参加させてもらったり、あんずの郷で行っている餅つき大会など大きな行事には、地域への参加を呼びかけて地域との交流を深めている。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		理念を毎朝の朝礼で唱和して、職員全員に意識を浸透してもらっている。その上で日々の業務の中で、声掛けをする際には入居者の方に思いやりと優しさの心で、明るく笑顔で接するように対応している。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		御家族には、面会時や毎月のふれあい通信等で日常生活状況を説明し、理解を示して頂いている。又、地域とは運営推進会議を通じて、理念の説明を行っている。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		隣近所への挨拶は行っており、行事がある際には気軽に参加出来るように声掛けを行い、日常的な付き合いが出来るようにしている。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		地域の一員として、地域の祭りや運動会・文化祭・敬老会等に入居者の方々と一緒に参加したり、地域の方々に事業所を訪れて頂けるよう、納涼祭を開催したり、地域の文化祭で介護相談会を開催させて頂いたりしている。また、職員も毎年地域で行っているお祭りで、御神輿を担いだりして、地元の人々との交流を行っている。

グループホーム あんずの郷

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	取り組んでいる。地域で介護相談室を開催して、高齢者の方々への支援を行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価は今回で4回目となり、入居者・御家族の安心を図る為、全職員が評価の意義を理解し、前回の外部評価の結果をもとに改善に向けた取り組みを行っている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	御家族・校区自治会長・副会長・民生委員・地域包括支援センター職員の方に参加して頂き、近郊に立地する同法人運営のG・Hねむの郷金鶏と合同の運営推進会議を2ヶ月に1回開催している。事業所のサービス内容を報告したり、運営方針を報告している。また、意見を言って頂き、サービス向上に活かしている。本年より御入居者の参加も促している。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	研修会・事業所連絡会・GH協議会等に市の担当者に来て頂いたり、お会いした時に報告したり相談して連携を取っている。又、北九州市より派遣される介護相談員を受け入れ、入居者の方々の相談等に乗ってもらっている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者や職員は、外内部研修にて学ぶ機会を持ち、必要とされる方には入居契約の時に、全御入居者・御家族に制度についての説明を行っている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外内部研修にて学ぶ機会を持ち、今後も定期的に研修会を行っていく。		

グループホーム あんずの郷

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約には十分な機会を設けている。最初に契約書を渡し、持ち帰って頂き、後日疑問点を伺っている。その後、こちらから説明を行い、更に疑問が無いかをお伺いし、無ければ契約を結ぶようにしている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>毎月外部より、介護相談員の方が来られ、入居者の方の相談、不満、苦情等を聞いて何かあれば職員に伝えて頂く様にしている。その内容については、職員間で話し合いを行い、対応している。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>御入居者の生活状況を毎月ふれあい通信として、御家族に送っている。請求書と共に、収支報告書も一緒に送っている。又、職員の異動があった場合は、全御家族に文書でお伝えし、面会時にもその都度説明を行っている。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱を設置して、御家族や御入居者の意見や不満を聞いて職員間で検討している。又、運営推進会議においても、御家族から御意見を頂き、その意見を基にサービス向上に活かしている。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>定期的に運営に関する職員の意見や介護に対する思い等をアンケートを通じて、聞いている。それを、ミーティング時に職員と共に話し合いを行っている。又、年二回の面接時(チャレンジシート)に意見を聞いている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>個別レクや合同の行事時には、職員の勤務時間の変更等は柔軟に行っている。又、職員にも説明して納得して頂いている。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>御入居者への影響がでないように配慮した人事を行っている。又、職員の異動、離職を最小限に抑えるために、基準以上の人員配置をしたり、職員の休みの希望には極力応じるようにしている。</p>		

グループホーム あんずの郷

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。</p>	<p>職員の採用の際には、偏見を持たずに面接を行って決めている。介護の経験の無い方や、過去には外国人の採用も行っている。又、職員の資格習得の為に、内部研修を行ったり勉強会の開催や社会参加への協力も行っている。又、採用前にボランティアとして数日勤務して頂き、お互いの意思を確認しあっている。</p>		
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。</p>	<p>入居者の人権を尊重するように、入社時には職員への教育を行っている。又、年二回の職員面接時にチャレンジシート(自己評価表)を使用して、人権を尊重したケアが出来ているか再度見直しも行っている。</p>		
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>管理者や職員は内外での研修を行っている。年間計画を立てて研修を受ける機会を確保したり、職員が順番に講師役になって、研修を実施する等の取り組み行っている。</p>		
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会や事業者協議会に参加し交流する機会を設けている。</p>		
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>休みの調整や親睦会を行ったりして職員のストレスを軽減出来る様に努力している。又、相談役を明確に位置づけて、いつでも相談出来る関係を築いている。</p>		

グループホーム あんずの郷

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	チャレンジシートと事業所独自の物を採用して、勤務状況や職員個々の努力や実績を賞与等に反映している。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	新規入居者の方は、ホーム長・プラン担当職員が中心に話をする機会を多く作り信頼関係を作るようにしている。		
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	『このサービスしか出来ない』と決め付けるのではなく相談に応じ柔軟に対応している。		
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	『このサービスしか出来ない』と決め付けるのではなく相談に応じ柔軟に対応している。		
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居の相談を受けた場合、施設長とホーム長が家族面接を行い、自宅や施設等を訪問している。短時間の日帰り利用や家族同伴の体験入居等を行っていき、徐々にホームの生活に馴染んで頂いている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	御入居者を支援される側だけの立場におかず、一緒に生活していく上で、御入居者の方から学んだり、励まされたりして支えあう関係を作っている。		

グループホーム あんずの郷

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	外出やレクリエーション等への参加を共にして頂く事によって、信頼関係を作っていくように勤めている。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	御入居者の方と御家族との関係を理解して、御入居者と御家族が良い関係になれるように支援している。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御入居者の方の友人や馴染みのある場所は大切に、関係が途切れないように支援している。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	御入居者同士のコミュニケーションがとれるように、職員が間に入る等の配慮を行い、支えあえるように支援している。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約が終了しても御家族との関係は、断ち切らない付き合いを大切にしている。(退去後もお見舞いまたは、不幸にも亡くなられた方は、初盆のお参りに行かせて頂いている。)		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	面接時に御入居者・御家族一人一人の思いや希望、意向を確認し、ホームでどのように暮らしていく事を望んでいるかを伺っている。御入居者が自分で決めたり、御入居者の方に選んで頂けるように環境を作っている。		

グループホーム あんずの郷

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	絵を描く事が好きな御入居者の方には、絵を描くレクリエーションを多く行ったり、歌が得意な御入居者の方には、音楽のレクリエーションを行ったり等、御入居者の方々がこれまでの経験を活かしてもらえるように支援している。		
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	御入居者の方々、一人ひとりの一日の流れを把握して支援するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当職員・ケアプラン係り、御入居者、御家族で相談して具体的な課題、目標を記載した介護計画を作成している。又、かかりつけ医や他専門職に意見、希望を聞き計画に反映させている。		
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じて、御入居者・御家族・必要な関係者と話し合い、見直しを行うと共に、毎日のミーティング時や月1回のフロア会議において、御入居者の状態・希望に変化が生じた場合は見直しを検討している。		
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子の記録は特記事項に記入を毎日行い、情報の共有をしながら、日々の介護や見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所の多機能性を活かし、医療連携体制や病院・自宅・美容室への外出の支援等、その時々々の要望に応じた支援を行っている。又、御入居者一人ひとりの「あなたの夢叶えます」という個別レクを実施している。		

グループホーム あんずの郷

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	敬老会やクリスマス会等の際に、保育園児の慰問ボランティアに来て頂いたりして、交流を図っている。		
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	以前使われていたデイサービスやケアマネージャーに時折、顔を見せに行ったりしている。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議の場を利用し、地域包括支援センターの職員の方に相談している。		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、御入居者と御家族の希望を聞き、かかりつけ医を選択して頂いている。系列医療機関でも診察は可能である事を入居時に説明している。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	系列医療機関の院長へ相談したり、認知症に関する診断や治療を受けられるように、支援している。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	系列医療機関の看護師も含め、医療機関との連携は整っている。又、24時間対応して頂けるような体制を作っている。		

グループホーム あんずの郷

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>系列医療機関の他、有床の医療機関を協力医療機関として確保しており、御入居者が入院された際には、御家族・医療機関と情報交換を密に行い、早期退院に向けた支援をしている。</p>		
49	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>入居契約時に、終末期のあり方について説明を行っている。状況に応じて終末期における対応について、御家族と繰り返し話し合いを行い、御家族としての考えを確認している。</p>		
50	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>重度化に関する指針やホームの見取りに対しての考え方を打ち出している。又、重度の方は個別に御家族との同意書を交わしている。</p>		
51	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>別の居住へ移り住む際は、本人・御家族・ケア関係者間での十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐように努めている。</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>全職員がプライバシーに配慮したケアや声かけが出来るよう、内部研修を行い、御入居者の自尊心や羞恥心に配慮した、さり気無いケアを行っている。又、記録等の個人情報の取り扱いには十分に注意している。</p>		

グループホーム あんずの郷

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	御入居者一人ひとりが自分で決めたり、希望を表したりする事を大切にし、本人のわかりやすいように説明を行っている。		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	御入居者の意思を尊重し、日課にとらわれない生活を提供している。予想外の希望があった際には、意向に沿えるよう柔軟に対応している。一人ひとりのペースに合わせた支援を大切にし、御入居者の希望を優先する為、その日に行わなければいけない業務は職員間で協力して行うようにしている。希望をうまく伝えられない御入居者には、選択肢を準備		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	着る服を選んで頂いたり、行事の企画の時にいきたい場所を御聞きしたり買い物にお連れして、好きなものを選んで頂いたりしている。理容・美容は希望のある方には望む店に行ける様に支援している。		
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	御入居者の持っている力を発揮して頂き、食材の買出しから調理、味見、配膳・下膳、後片付け等、職員と共に楽しみながら行っている。献立についても週2回自由食を取り入れて、御入居者の方にその都度希望を聞き食べたい食事を作っている。		
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	嗜好品(お酒・明太子など)については、ご家族の了解・主治医の許可のもと提供させて頂いている		
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	御入居者の排泄パターンを把握して定期的に声掛けを行ったり、誘導をして排泄の失敗等を出来るだけ減らせるように努めている。		

グループホーム あんずの郷

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	御入居者の希望に合わせ、入っている時間や入浴の順番、入浴剤の使用等個別の対応を行っている。入浴を楽しんで頂ける様、菖蒲湯や柚子湯にしたり、時には銭湯に行く等の取り組みもやっている。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	御入居者一人ひとりの生活習慣を把握して、状況に応じて居室に誘導して横になって頂いたり、ホールにソファを設置しているので、そこでゆっくりと休息してもらう等の支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	御入居者の得意なことや好きな事を把握し、出来る事・したい事を考慮しながら支援している。		
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御入居者と一緒に買い物行った際には、レジでお金を支払って頂いたり、御自分のお小遣いで買いたい物を買ってもらう等の支援をしている。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には、御入居者の希望に合わせて外出を行うように支援し、時には車でドライブ等も行っている。身体的に外出が困難な方でも、少しの時間でも外の空気に当たってもらうなどの支援を行っている。		
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	個別に御入居者がしたい事・行って見たい所を聞いて、月のレクリエーションとして盛り込んでいる。その際には御家族の話を聞き、行きたい所に出掛けられるように支援している。		

グループホーム あんずの郷

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御入居者より要望があった際には電話をかけたり、手紙を書かれた際には一緒に、ポストまで出しに行く等して対応している。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間に制限を設けず、家族や知人がいつでも来やすい環境を提供している。面会に来られた際には居室に誘導したり、お茶を出したりして、ゆっくり過ごせる様に支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に対しての知識については、研修等を通じて正しく理解してもらっている。現在は身体拘束を行っている御入居者はいない。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室や玄関には鍵をかけることは行っていない。職員は、鍵をかける事の弊害を理解し、職員が御入居者の安全確認に隙が出来ないように、作業する場所や立つ位置を工夫したり、職員同士で声を掛け合っている。エレベーター前の扉には、センサーでチャイムが鳴るようにして対応している。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	御入居者の所在確認は常に行っており、居室にいる際にも定期的な見回りを行い、安全に配慮している。また、その際にはプライバシーにも配慮して、居室に行く際には、必ずノックを行う様に徹底している。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意が必要な物品に関しては、何処におけば危険を取り除けるかを職員間で話あって対応している。		
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	緊急時のマニュアルを作成して、御入居者一人ひとりの状態を把握してもらっている。また、やむなく事故が発生した際には、今後の対応策を職員間で話し合い事故防止に取り組んでいる。避難訓練については、年2回実施している。		

グループホーム あんずの郷

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急対応については、全職員を対象に、救急救護の研修を実施した。また、定期的に内部研修も行っている。		
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	自治会の集まりや、運営推進会議を通じて協力を呼びかけている。また、校区の防災訓練にも参加している。		
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	御入居者の起こり得るリスクについては、御入居者の状態に応じて、面会時や月に一度のふれあい通信で家族に報告している。また、対応策についても家族と相談を行っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝バイタルチェックを行い、異常時の早期発見・早期治療に努めている。また異常が見られた際は、病院等と連携を図り対応している。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が薬について分かるように、個人ケースに薬の処方箋を挟んでいる。また、目的についても薬が変更になる度に伝達ノートに理由を説明し、全職員に伝わるようにしている。		
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	内部研修を通じて、疾病等についての知識を増やすよう努力している。また、便秘等見られた際は、水分補給強化や薬の調整等で対応している。		

グループホーム あんずの郷

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	御入居者全員に食後の口腔ケアの声掛けを行っており、御入居者の状態に合わせたケアを支援している。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食、摂取量を確認記録し、栄養がきちんと取れているか確認している。また、排尿量も記録を行い、少ない場合は水分補給を強化等の対応を行っている。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを作成し、感染症等で統一した対応ができる様にしている。また、定期的に感染症の研修を行い、知識を深めている。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具等は毎日消毒を行っており、消毒確認表を作成している。忘れないようにチェックを実施し、衛生管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関の大きな窓から明かりを取り入れ、季節を感じて頂けるような小物を設置する等、明るい雰囲気を感じて頂けるよう配慮している。		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	大きな音や不快な音がする際には、御入居者への声かけを行い、短時間で終わるよう配慮している。家庭的な物品や季節感を感じて頂けるような装飾品にて、温かい雰囲気になるように努めている。		

グループホーム あんずの郷

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前にソファを設置や畳のスペースを設け、他入居者の方と交流の場になっている。		
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や物品はもちろん、幼少期に使われていた大正琴をお持ち頂き飾る等、実施している。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	定期的に換気を行っている。また空調調節を適宜行い、御入居者が快適に過ごせるよう配慮しながら、体調管理に努めている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーにし、ホール内やトイレ内に手すりを設置したり、車椅子のまま洗面所を使用できるようにし、自立支援を促している。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	洗面道具や洗濯物に記名し、各自が御自分の物を他入居者の物と区別し使う事ができるよう配慮している。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の外回りには日当たりが良好な場所があり、そこで御入居者と一緒に日向ぼっこを実施したりして利用している。		

グループホーム あんずの郷

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

グループホーム あんずの郷

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
100	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)